

令和2年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

クライミングアートコンクール

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

「平成29年度教科等に関連づけた体験活動プログラム作成研修」において、体験活動プログラムと図画工作の学習を組み合わせる「主体的・対話的で深い学び」を展開する「クライミングアート（以下CAという）」の指導案を作成したので、全国の小、中学生を対象に作品の募集を行うことで普及を図る。

2. 事業の概要

(1) 応募から審査・表彰の流れ

応募期間	令和2年	4月	8日（水）	～	10月	10日（土）
審査		10月	25日（日）	～	10月	27日（火）
作品展示		11月	13日（金）	～	11月	15日（日）
表彰式		11月	15日（日）			

(2) 応募者

【岡山県】岡山市立第一藤田小学校	5・6年生	(85作品)
		全85作品

(3) 企画・運営のポイント

- ① 早い時期から取り組むことができるよう、昨年度より開催期間を早めた。
- ② クライミングウォール（以下「CW」という。）の活動予定がある小学校に対して、事前に児童数分のチラシを配布し、実践と応募を依頼した。
- ③ 昨年度、クライミングアートコンクール（以下「CAC」という。）に応募があった学校に児童数分のチラシを配布し、実践と応募を依頼した。
- ④ 岡山県小教研図画工作部会の後援申請を依頼し、後援を受けた。
- ⑤ 岡山県小教研図画工作部会、岡山県中教研美術部会、山陽新聞社が主催する「第10回岡山県児童生徒絵画展」にCAの作品が選ばれたので、地区と岡山市の審査を見学し、審査に参加した教職員への普及を図った。

### 3. 活動の内容等

#### (1) 活動の状況



【所内審査の様子】



【児童生徒絵画展 地区審査の様子】



【児童生徒絵画展 岡山市審査の様子】



【展示された優秀作品】



【展示された作品】



【表彰式】

(2) 入賞作品

最優秀賞



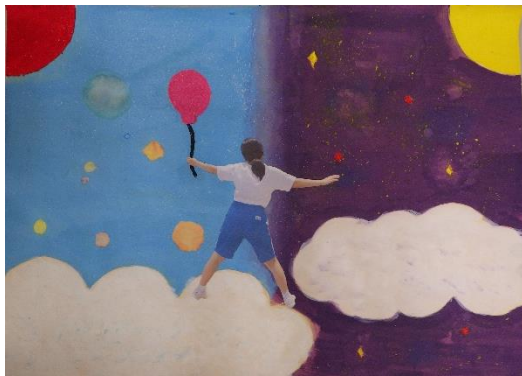
【クサガメに乗っておかしな海へ！】  
第一藤田小5年/永井 恵太

所長賞



【あんなのまなきやかてたのに】  
第一藤田小5年/岡田 圭晃

優秀賞



【昼と夜の境】  
第一藤田小6年/松田 花乃

優秀賞



【天然温泉】  
第一藤田小5年/山口凌次郎

佳作



【不思議な木をのぼると…】  
第一藤田小6年/生崎 日奈子

佳作



【自分だけのオリジナル宇宙】  
第一藤田小6年/平井 有乃介

佳作



【強制的に大筆コンクール! ?】  
第一藤田小5年/上村 知歩



## 4. 成果・課題

### (1) 参加者の声

- ① 児童の発想の面白さが如実に出る題材だと感じました。「この写真をこう使うのか」という児童の発想の素晴らしさに驚かされました。(岡山県小教研図画工作部会研修会参加者)
- ② 自分の描いた絵が表彰されてうれしかったです。表彰式は緊張しましたが、良い思い出になりました。(表彰式参加の児童)
- ③ とても面白い作品が多くて、見ていてとても楽しかったです。写真に合わせた場面や背景の設定があって、どれも工夫されていると感じました。(展示作品を見に来た保護者)
- ④ どの児童も楽しそうに作品づくりに取り組んでいました。施設の利用こそできませんでしたが、GIGAスクール構想に合わせ、各校に導入されたタブレット等を活用することのできる素晴らしい取組だと思いました。(応募校教諭)

### (2) 成果

- ① 新型コロナウイルスの影響で、利用者が大幅に減り、CWの活動自体がほとんど行われなかった。そのような情勢の中でも、応募作品が集まり、コンクールを開催することができた。
- ② CAの作品が、岡山県小教研究会図画工作部会、岡山県中教研美術部会、山陽新聞社が主催する「岡山県児童生徒絵画展」の選考作品に選ばれた。岡山市審査にあがった4作品のうち3作品が県の審査へとあがり、多くの教諭の目に触れることで、CAの普及につながった。
- ③ 地域との交流事業であるチアフルデーに合わせて優秀作品の表彰式を行うことで、4名の児童とその家族を国立吉備青少年自然の家に招くことができた。また、所内の一角を屋外ステージとして表彰式を実施することもできた。

### (3) 今後の課題

- ① 新型コロナウイルスの影響で、当施設の利用やCWを利用する団体が減った。今後、感染防止対策を考慮しながらより多く利用者に参加してもらえるような事業や企画を検討していきたい。
- ② 国立吉備のホームページにあるCWのページを開いた人にしか指導案を見る機会がなく、なかなか指導案までたどり着きにくい。ホームページでの表記の仕方を変更するなど、広まっていくような方策を考えたい。
- ③ 学校に開催要項やチラシを数部送付するだけではあまり広まらないと感じた。今後の事業では、児童生徒人数分のチラシの配布やHPの利用など、積極的な広報活動をして多くの人の目に触れるように情報を発信していきたい。

担当：企画指導専門職 延原 正章